

吉田麻也

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

吉田 麻也(よしだ まや、1988年8月24日 -)は、長崎県出身のサッカー選手。オランダ1部リーグ(エールディヴィジ)・VVVフェンロー所属、ポジションはディフェンダー。愛知県立豊田高等学校卒業。

小学校2年生のとき、地元長崎市の南陵FCでサッカーを始める^[1]。小学校6年生のとき、兄が見つけた名古屋グランパスのユースセレクションを、家族で名古屋を訪れるついでに受験^[1]。家族はもとより本人も合格するとは思っていなかったが、合格した(受験者70人中合格は4人であった)^[1]。

ユース(U-18)時代はキャプテンを務め、選手としてもボランチとして攻守にわたって支える、チームの要といえる存在であった^[2]。2006年の全日本ユースではチームを牽引して準優勝に導き、翌2007年に長谷川徹、福島新太、新川織部とともにトップチームに昇格した^[2]。2007年シーズン開幕前、古賀正紘や秋田豊、角田誠が離脱するなどのチーム事情から、層が薄くなったセンターバックにコンバートされ^[2]、第9節大分トリニータ戦で初出場を果たした^[3]。19試合に出場。

2008年シーズン、就任したストイコビッチ監督の信頼を受け、序盤はバヤリツァとともにセンターバックのレギュラーとしてチームを支えた。7月には北京五輪代表に選出。グランパスではシドニー五輪にオーバーエイジ枠で出場した植崎正剛を除けば初のU-23日本代表への選出であった^[4]。出場は敗退決定後のグループステージ第3試合オランダ戦だけであったが、マッチアップしたFWロイ・マカーイと互角に渡り合った^[5]。五輪招集により一時的にレギュラーから外れた^[6]ものの、22試合に出場。第22節鹿島アントラーズ戦では初得点も挙げた^[3]。シーズン終盤には、決定力不足を補うために高さを生かしてFWとして起用されることもあった^{[7][8]}。

2009年シーズン、退団した大森征之から背番号4を受け継ぐ。25試合に出場し、名古屋DFの軸として活躍した。12月21日には、既に予選突破を決めており、若手中心のメンバーで臨む方針だったアジアカップ最終予選・イエメン戦に向けたA代表に初招集され、この試合でA代表デビュー。この年のオフ、オファーを受けたオランダのVVVフェンローへ完全移籍。フェンローに移籍してすぐ左足首を骨折し、09-10シーズンは出場がなかった。2010年10月30日の対FCフローニンゲン戦の後半途中から出場し、これがオランダでのデビュー戦となった。試合は3-5で敗れたが、初アシストもマークしている。

2011年、AFCアジアカップ2011に臨む日本代表メンバーに選出。フルメンバーでの実質代表デビューとなった1月9日のグループステージ第1節・ヨルダン戦で代表初得点を記録。

3 OCN ブログ
Blogzine



吉田麻也
オフィシャルブログ
~Endless football~



V・ファーレン長崎 スクール生



V・ファーレン長崎
ジュニア選手



V・ファーレン長崎
ジュニアユース選手



V・ファーレン長崎 ユース選手

